

入社式前・新入社員対策行動

3月31日、門司駅前にて新入社員対策行動が開催されました。門司駅には国労組合員15名が参加し、約120名の新入社員を迎えました。駅を降りた新入社員は、人事部や研修センター社員の案内でタクシーに分乗しましたが、タクシーの数が間に合わず、乗れずに次のタクシーを待つ間に、「入社おめでとう！労働組合は選べます！」「労働組合はオープンショップ制です！」とマイクで呼びかける原田執行委員（九州本部）らの声に耳を傾けているようでした。タクシー乗り場で待たせると演説を聞かれると不安に感じた社員が、エスカレータ下にタクシーを止めて乗せていましたが、「バス停に停めると迷惑になります！」という組合員の声に断念する一幕もありました。約一時間30分ほどの行動でしたが、私たちの行動で「国労って何？」と興味を持ってもらえれば成果の一つだと思います。新入社員のみなさん、入社おめでとうございます。



歓迎

伊藤一之さん 秀島勝則さん 濱崎直樹さん

3月より、唐津乗務センターより3名の組合員が博多車掌区に転入されました。よろしくお願ひします。

青年のひとりごと

「嘘も100回言えば真実になる」。これは、ドイツ・ナチスの宣伝大臣であったヨーゼフ・ゲッペルスによる有名な台詞です。要は、事実無根のデマや嘘であっても、繰り返し流し続けていけば、権威に弱い大衆は、その真偽を確かめることなく、社会の「常識」として認識するということ。ここでいう「権威に弱い」とは、自分の頭で物事を考えることによる認知負荷（ストレス）を避ける代わりに、支配者の言葉を無批判に受け入れてしまう人々の特性を意味します。この場合、彼らに見える「世界」というのは、当然、支配者に都合の良い情報や言論から成る「歪んだ世界」であることが多いのですが、彼ら自身、それが「真実」だと信じて疑わないため、筋違いにも、思慮深い人間を相手に、「現実を見ろ」と根拠なき自信を持って諭してきます。徹底した思考停止ぶりですが、残念なことに、これはわが社にも当てはまります。会社は、夏のボーナス回答を前に、相変わらず「会社存続の危機」をアピールすることで、低額回答をほのめかしています。まるで「百年に一度の金融危機」といったように、何かのモノマネとしか思えないくらい浅薄なのはもちろん、「ボーナスは業績連動ではない」という過去の発言や、「貸し付けるお金」があるという事実からも、「コロナ禍」での業績が下がったからといって、「ボーナスも払えません」という話にはならないことくらい少し考えれば分かるのですが、会社という「権威」を盲信していれば、病人のうわごとのように、ただ「仕方ない」と繰り返すしかないわけです。ところで、以前、「コロナ禍で利用者が減って仕事が楽になったにも関わらず、通常どおりの月例賃金が貰えているのだから、ボーナスを下げられても仕方ないよね」という衝撃的な声を耳にしたことがありますが、このように、論理破綻をものともせず自己欺瞞を貫く社員（労働者）がいることは、会社にとってもうれしい「誤算」に違いありません。

○当面する行動

- 4月28日(水) 17:00~/原水禁加盟団体代表者会議 県教育会館
- 4月28日(水) 18:30~/4・28沖縄と連帯する福岡県集会 県教育会館